

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況

研究分担者：青木 正志 東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座 神経内科
研究協力者：加藤 昌昭 総合南東北病院 神経内科

研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

【方法】2015年度（平成27年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

【結果】プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2014年11月から2015年10月現在までの1年間で47例であった。内訳としては、青森県10例、秋田県4例、岩手県8例、宮城県8例、山形県5例、福島県12例であった。13例は他の疾患確定しプリオン病は否定された。それ以外がプリオン病（疑いを含む）の診断であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の例は180Val/Ile変異を伴う5例であった。本年度剖検数は0例であった。

【結語】東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考える。

A. 研究目的

東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

B. 研究方法

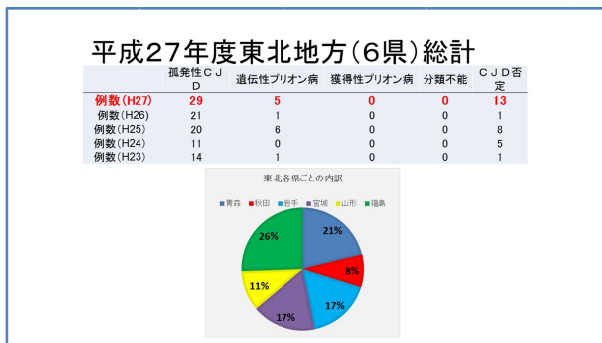
2015年度（平成27年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

(倫理面への配慮)

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスに協力いただくことに関して書面にて同意を取得した。

C. 研究結果

プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2014年11月から2015年10月現在までの1年間で47例であった。内訳とし

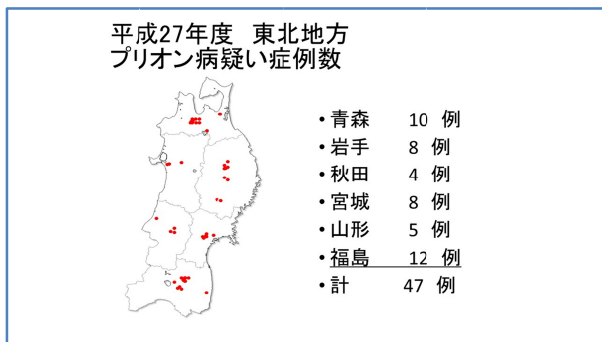


なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

ては、青森県 10 例、秋田県 4 例、岩手県 8 例、宮城県 8 例、山形県 5 例、福島県 12 例であった。13 例は他の疾患診断確定しプリオン病は否定された。それ以外（34 例）がプリオン病（疑いを含む）の診断であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の症例は 180Val/11e 変異を伴う 5 例であった。本年度剖検数は 0 例であった。



E. 結論

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であるとする。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表（2014/4/1～2015/3/31 発表）

1. 論文発表

なし

2. 学会発表